

夢のあとさき その3

中国の故事に「胡蝶の夢」がある。

原文

昔者莊周夢為胡蝶。栩栩然胡蝶也。自喻適志与。不知周也。俄然覺、則蘧蘧然周也。不知、周之夢為胡蝶与、胡蝶之夢為周与。周与胡蝶、則必有分矣。此之謂物化。

書き下し文

昔者(むかし) 莊周(そうしゅう) 夢(ゆめ) に胡蝶(こちょう) と為る(なる)。栩栩然(くくぜん) として胡蝶(こちょう) なり。自ら(みずから) 喻(あや) しみて(たのしみて) 志(こころざし) に適(かな) える(かなえる) かな。周(しゅう) たるを知らざるなり。 俄(にわか) にして覺(さ) むれば(さむれば)、則ち蘧(きよきよ) 々然(ぜん) として周(しゅう) なり。知らず、周の夢に胡蝶(こちょう) と為れる(なれる)か、胡蝶(こちょう) の夢に周と為れるか(なれるか) を。周と胡蝶とは、則ち必ず分(ぶん) 有らん(あらん)。此れ(これ) を之(これ) 物化(ぶっか) と謂(い) う(いう)。

語釈

胡蝶(こちょう) - 蝶(ちょう) のこと。  
昔者(むかし) - 昔。「者」は時を表す助字であり、訓読しない。  
莊周(そうしゅう) - 戦国時代の思想家の一人。  
栩栩然(くくぜん) - ※ 「のびのびと」(飛ぶ) とか「ひらひらと」(飛ぶ)。  
蘧蘧然(きよきよぜん) - ※ 「はっと驚いて」とか「我にかえって」。  
物化(ぶっか) - 万物が変化すること。

-。

現代語訳

以前、莊周(そうしゅう) は夢の中で蝶(ちょう) になった。ひらひらと飛んでいて、蝶そのものであった。自身が楽しくて、思いのままだった。そして自分が(人間の) 周であることに気づかなかった。急に目が覚めて、我にかえって、そこには周がいた。(私には) 分からない、(はたして) 人間である周が夢の中だけで蝶になったのか、(それとも) 蝶が夢の中で人間になったのか。(常識的には) 周と蝶には必ず区別があるはずである。(しかし、実際は常識どおりではない。) このこと(=夢のように、区別など無いのだ、ということ) を「物化」(ぶっか) (=万物は変化する) という。

今の私は、蝶なのか私なのか。まさに物化の状態である。